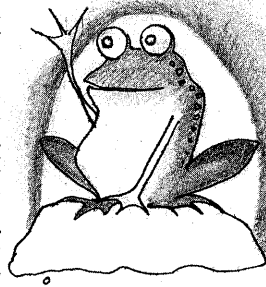


## 雨の日

松井

とし



幼い人たちと日々を暮らしている私にとって、雨の朝は悩ましい。子供たちの溢れるエネルギーを、どのように発散させられるだろうか、どうしたら楽しい一日となるであろうか、そのことばかりを考えながら出かける。

その日も数日前から雨が降り続いていた。小さな遊戯室は入り乱れて、遊ぶ子ども達でいっぱい。私はとっさに「雨の日のおさんぽ」を思いついた。長靴をはき、色とりどりの傘をさして出発。通用門をくぐり、隣の高校のグラウンドへ出かける。海のように大きな水たまりや小さ

な流れを見つけて、子どもたちは大はしゃぎ。しゃがみこんで何かに見入っている子どももいる。

お弁当を食べながら、A男とS男の話がはさむ。「スッスッと早く歩ける傘があったらいいな」A男が言うと「そうそう、ロケットになったりしてね」とS男。二人の瞳が輝き出し、聞いている私もファンタジーの世界への扉が開かれた、と楽しくなってくる。

翌日クラス全体に彼らのおしゃべりを紹介すると、他の子どもたちもいろいろな夢を語り継

ぎ、いつのまにか身体も動き出し、劇が始まる。動きながら、子どもたちはほとんど自由に  
なっていく。こうしてお話が創り出される過程  
は、本当に楽しい。

『傘をさして散歩していると、いつの間にか  
透明のカバーが出てきて、ロケットになってい  
た。空を飛び、星が輝く宇宙に着いたが、ブ  
ラックホールに巻き込まれてしまう。ひとすじ  
の光をたよりに、やっとの思いで外へ出ると、  
そこは虹色の海だった。泳いでいると身体が軽  
くなり宇宙遊泳を楽しんだ。別の星へ降りると  
そこには大きな怪獣が住んでいた。びっくりし  
て逃げた。追いかけてられて「もう駄目だ」と  
思った時、怪獣が岩につまずき地響きを立てて  
転んだ。そのはずみに飛ばされて着いた所は、  
うさぎの国。やさしいうさぎたちと楽しく過ご  
したが、やはり地球に帰りたい。ある日うさぎ

が、宇宙の墓場で円盤を見つけてくれた。みん  
なで苦労しながら、その円盤を修理して、帰途  
に着いた』

それにしても、子どもたちの語る夢はなんと  
彼らの心を映していることであろう。大人の想  
像以上に、雨の日は歩きにくいのだ。スイミン  
グスクールで特訓を受けている子どもは「虹色  
の海では、誰でもすぐ泳げます」と言う。怪獣  
にはあこがれるが、恐ろしい。そして日頃馴れ  
親しんでいる、うさぎたちとの日々は楽しく心  
が安らぐが、でも、やっぱり父や母の待つ家に  
帰りたい。

思いがけなく生まれた物語『雨の日の不思議  
な冒険』は、まさに雨の日のプレゼントであ  
る。

(神奈川県立教育センター)